

高石市教育委員会定例会会議録

(令和2年9月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	令和2年9月30日 午後5時35分
閉 会	令和2年9月30日 午後6時10分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 木 寄 茂 巳 委 員 : 西 中 隆 委 員 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一
事務局職員	教 育 部 長 : 細 越 浩 嗣 教 育 部 次 長 : 上 田 豊 明 教育部こども未来室長 : 神志那 隆 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 社会教育課長兼公民館長 : 佐 藤 信 雄 社会教育課長代理 兼青少年対策班長 兼たかいし市民文化会館長 : 道 井 里 沙 学 校 教 育 課 長 : 松 田 訓 一 学 校 教 育 課 参 事 : 山 崎 陽 子 学 校 教 育 課 長 代 理 : 菅 原 庸 晴 学校教育課 教育研究センター所長 : 杉 原 敦 史 こども家庭課長 : 家 村 美 雪 子 育 て 支 援 課 長 : 小 林 弘 典 教 育 総 務 課 主 事 : 西 村 勇 亮

議題及び議事の要旨及び議決事項

・ 議案第1号 高石市教育委員会表彰について

教育総務課長	議案第1号、高石市教育委員会表彰についてご説明します。 本議案は、高石市教育委員会表彰規則第3条第3号及び第4条第3号の規定に基づき、さきで開催されました表彰審査会においてご審議いただきました別紙候補者を表彰するものです。
佐野委員	体育大会が中止になったんですけれども、この人たちの表彰の仕方はどうなりますか。
教育総務課長	例年、体育部門は市民体育大会、文化部門は文化祭で表彰を行います。今年度は文化祭のみですので、体育部門、文化部門を併せまして文化祭で表彰というふうに考えています。
吉村委員	今年はコロナの影響で大会がなかったんで、例年よりやっぱりちょっと少ないですか。
教育総務課長	ご指摘のとおり、近年だんだん増えてきていたんですが、今年はこ

	れまでの増加傾向から転じて減少しています。
吉村委員	特にやっぱり例年よりシニアの人が少ないですね。シニアはほとんどおられないですね。ちょっと寂しいですね。
西中委員	表彰の推薦のプロセスですが、どういうふうになっていますか。文化面が体育に比べたら非常に少ないですね。どんなふうに推薦の対象者を拾い上げていますか。
社会教育課長代理	文化・スポーツ・国際交流振興基金の助成金というものがあり、通年3月手前ぐらいまでに助成金の対象となる方から申請をいただきます。その対象となる方は、例えば大阪府大会であったりとか、全国大会であったりとか、国際大会に出場をされる方、誰でもいいというわけではなくて、それぞれの大会を勝ち抜いて、市の代表として府に出たりですとか、府の代表として全国に出たりとか、そういった優秀な成績を収められた場合、助成金の対象になりますので、その助成金を申請いただいた中で、さらに教育委員会の表彰に該当するような優秀な方を選んでいくということです。
西中委員	毎年そのような形で出しておられるわけですか。国際文化交流基金というんですか。
社会教育課長代理	文化・スポーツ・国際交流振興基金助成金です。
西中委員	この推薦された方というのは、皆この基金の対象になるわけですね。
社会教育課長代理	定例会資料の2ページの推薦書の3番から最後の20番の方までは、この助成金の対象になっている方です。
西中委員	1番、2番は対象にはならないんですか。
学校教育課長代理	学校教育課のほうからご説明させていただきます。 まず、高石市立の小中学校において、全国大会もしくは近畿大会、の大阪の大会等で勝ち抜いて出場した大会において、優勝もしくは準優勝が対象となっております。今回上げているのは、高南中学校と高石中学校の部活動で、全国大会のほうに出場していても、例えば近畿大会3位となって出場したとなれば、この対象とはなりません。
教育部長	今、社会教育課と学校教育課から説明がありましたように、漏れなく表彰規定に対象となる団体あるいは個人について今回上げさせていただきます。
採決	可決

・ 議案第2号 令和3年度大阪府新学力テスト（小学校すくすくテスト）の
て

学校教育課長	<p>議案第2号、令和3年度大阪府新学力テスト（小学生すくすくテスト）の参加についてご説明します。</p> <p>本議案は、令和3年度より新たに実施されます大阪府の新学力テスト、通称小学校すくすくテストへの本市の参加の承認を得るためのものです。</p> <p>このすくすくテストは、大阪府において5・6年生の児童の学力や学習状況を把握、分析することにより、子供たち一人一人が学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これから予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的として実施されます。</p> <p>実施内容としましては、学力調査として、第5学年では国語、算</p>
--------	---

	<p>数、理科及び教科横断的な問題、第6学年では教科横断的な問題が実施されます。また、併せて学習状況に係るアンケートを5・6学年ともに実施され、さらに、5・6年生担任教諭へのアンケートも実施されます。</p> <p>実施の日程については、令和3年度の全国学力・学習状況調査の日と同日、令和3年5月27日木曜日の実施となります。6年生においては、全国学力調査に引き続きまして教科横断的な問題と府独自のアンケートも同日に行っていただくということになります。</p> <p>なお、このすくすくテストも全国学力・学習状況調査と同様に、市町村教育委員会の判断で個々の学校名を明らかにして調査結果を公表できますけれども、学校教育課としましては、学校名を明らかにしての結果公表をすることなく、本調査に参加し、その結果を活用して、本市の小学校、そして、その先に続く中学校の学力向上に関する取組の成果と課題について分析を行い、今後の授業等の指導、改善に努めていきたいと考えております。</p> <p>以上のことから、令和3年5月27日に実施予定の本すくすくテストへの参加についてご承認いただきますようよろしくお願いいたします。</p>
吉村委員	<p>今まで文部科学省で全国学力調査を行っていましたね。その上に、まず、例えば5年生でしたら言語能力とか読解力、情報活用などということで、国語、算数、理科及び教科横断的な問題、6年は教科横断的な問題となっているんですが、この文部科学省の学力テストとこれとの関係はどのように考えたらいいのか。文部科学省の学力テストを補完するものなのか、それとは全く独自の目的を持ってやるものなのか、その辺はどうなんですか。</p>
学校教育課長	<p>今、説明させていただきましたとおり、子供たち一人一人に力を着実につけることを目的として実施するという目的になっております。</p> <p>ただ、5年生で国語、算数、理科、それと教科横断的な問題、そして、6年生では教科横断的な問題ということで、5年生でこのすくすくテストを実施して、そのまた1年後に、来年の5年生は、1年後にまた全国学力調査も受けることとなります。これについては、特に関連して全国学力調査を補完するとか、そういうことではありませんけれども、少しでも早い段階から課題を抽出して、子供たちの学力向上に資するということがまず一つと、それと、小学校の段階で2度にわたってこういった教科のテスト、実施するというので、ある程度の経年変化も見取ることができるのではないかなと考えております。</p> <p>まだ詳細についての説明があったわけではありませんけれども、様々、市教委としまして活用してまいりたいと考えております</p>
吉村委員	<p>もう一つ、教科横断的なということが出ております。教科横断的というのは、授業をするときにいろいろ昔も言っているわけなんですけれども、どの授業でも教科横断というのは、例えば、国語をやっているでも算数の内容も理科の内容も出てくるわけなんです、テストでそういうのをやって、分析して何を見ようとしているのか、予測困難な社会を生き抜く力との関係ですか、これは。何か説明ありましたら、教科横断的なという。</p>
学校教育課長	<p>説明の内容については、今回資料にも入れさせていただいております実施要領、これに準ずる説明でした。ただし、教科横断的な問題について、我々も正直そのイメージが湧きませんでした。府教委のほうからは、例えばこういった問題がと示されましたものは、例えば、学校紹介の動画を作る。何人かからアイデアが出てくる、そのシナリオを見たときに、ここではどのような説明を、どのようなセリフを入れ</p>

	<p>ますかであったりとか、また、2つ出てきた案のどちらをあなたはどのような理由でそちらの案をいいと思いますかとか、そういった趣旨の問題と説明はされておりました。</p> <p>ただ、それで、例えば資料活用であったりとか、また、情報活用能力というような言葉もございましたので、そういったものを、単に国語であったりとか、単に算数であったりとか、そういった一教科でくれるものではなくて、そういったものを含む、そういう情報活用能力的なこと、また、資料活用とかも含めたものがというふうには、今のところご説明の中ではこちらとしては想像しております。</p>
吉村委員	<p>いわゆるPISA型の学力を捉えると、こういうふうに見ていいわけですか。</p>
学校教育課長	<p>この目的の中でも、これからの予測困難な社会を生き抜く力をということも入っております。全国学力調査というのが始まったきっかけに、確かにOECDのPISA調査等もありましたので、そのあたりにつきましては、そういった趣旨もあるのかなということはこちらも知っております。今いただいたようなご質問等も、また今後詳しい説明会が開かれると思っておりますので、大阪府教育委員会の方にこういうご意見、ご質問をいただいたということで投げかけたいと考えております。</p>
吉村委員	<p>5年、6年ということですが、実施するのが5月ということで、ほとんど内容は前年度の4年、5年の内容になると思うんですが、それを踏まえてテストして、目的にも書いてありますように、一人一人の指導の充実を図るために行うということなんで、結果が直ちに新学年の指導に生かせるスピード感を持って結果が出るんでしょうか、どうなんでしょうか。生かされなければあまり意味がないような気もするんですが。</p>
学校教育課長	<p>全国学力・学習状況調査のほうで見ますと、開始された当初よりも割と、半月から一月程度結果返却のスピードが速まってきております。今回のすくすくテストに関しても、全国調査と同じく業者委託等して採点から分析まで実施するというので、おそらくかなりのスピード感を期待しております。</p> <p>ただ、例年ですと4月に全国学力調査を実施され、結果返却も夏休みの時期に返ってくるというような形になっているんですが、今回は5月末の実施です。今いただいたご意見等も踏まえて、できれば次年度、5月に実施して、2学期当初から学校で何らかの取組ができるようなスピード感を持ってやっていただきたいというようなご意見も出ましたということで、要望を上げてまいりたいと考えております。</p>
西村委員	<p>6年生なんですけれども、全国学力調査を一通り受けた後、同日にこれをプラスアルファですということのようなんですけれども、ちょっとかなり子供たちに負担なんじゃないかなという感じはするんですが、その点はどうでしょうか。</p>
教育部長	<p>6年生についてですけれども、ここは5年生と6年生のテストの出題が異なっているというところが1つのポイントで、6年生については、教科横断的学習しか出題がないわけです。5年生は国、算、理と教科横断的な学習になっていまして、6年生は全国学力調査の国語、算数というものを調査結果ではかるというスタンスです。</p> <p>その中で、教科横断的な問題というのは、これはまさにこの新学習指導要領の主体的・対話的で深い学びで考え、いろんな教科をまとめた中で、ある一つの出題されたことに対して子供がどういうふうな答</p>

	<p>えを出していくのかということ、5年ではかり、また6年でもはかるという意味でこれは実施されていると考えています。6年だけは教科横断的な学習で、あとの国、算、理については全国学習状況調査に委ねるというふうな府のスタンスと考えていただけたらと思います。</p> <p>6年生については、国語、算数、理科は、2回やるということはないということで、やはり5年のときから、その子供自身の経年比較を狙っているということをご理解いただけたらと思います。</p>
西村委員	<p>ちょっと趣旨が違うというか、重複しない内容になっているというのは、今の説明で分かったんですが、6年生が1日で全部こなすというのは、やっぱり結構負担も大きいのかなと思いますので、その辺はまた府なりでいろいろ説明会があったときには、負担軽減というところも聞いてきていただけたらなと思います。</p>
学校教育課長	<p>今、西村先生ご指摘のとおり、やはり6年生については、先ほど部長からの説明にもありましたように、全国学力調査とはまた別であります。同日実施という形にどうしてもなってしまいます。</p> <p>次年度、6年生のほうで、全国の調査については、国語と算数と、それとアンケートという形で、およそ3時間、3こまの時間を使ってやることとなります。その後、教科横断的な問題と府独自のアンケートにも答えていただくということで、なかなか午前中だけでは収まらないのではないかなということも予測しております。</p> <p>そのあたりの軽減についても、今いただいたように、子供たちの負担感もあろうと考えますので、伝えてまいりたいと考えております。</p>
佐野委員	<p>確認ですけれども、児童アンケートは、6年生は学調でもし、ここでもする。中身は違うもの。中身については当日しか分かりませんよね、学調の分の。だから、同じようなことになる可能性も出てくるんですけれども、6年生のアンケートは府としては必要かなと思います。その辺また説明会のときに教えていただけてください。</p>
学校教育課長	<p>今、佐野先生おっしゃるとおり、全国学力・学習状況調査につきましてもアンケートがありまして、この小学生すくすくテストにつきましても実施要領を読む限りでは、やっぱり府独自のアンケートも実施されます。</p> <p>内容については、全国学力状況調査のほうのアンケートというのは、ここ数年ある程度固まってきてはいるけれども、それでも毎年若干変わる面もやっぱりあります。府独自のアンケートもかなり精査して作っていただけたらと思いますけれども、そういった懸念も出てきたということで、また精査してもらいます。</p>
西中委員	<p>8ページ、9ページにいろいろ書かれていますけれども、テスト結果の取扱いとか、あるいは結果の活用ということで、教員は、学校は、教育委員会とはというような形でいろいろ書かれているので、これはまたかなり負担になるわけです。</p> <p>だから、文部科学省の学力テストを分析して、それで、あれは1学年だけになる、今度5年がやるということは、そのプレテストみたいな形で、準備でやるというような形なのか、その辺がちょっと問題を見ないと分からないんですが、国語、算数、理科というのは、文科省の学力テストの内容です。だから、その5年版ということになるのですか。</p> <p>ただ、教科横断ということだけは新鮮味はある内容で、あとはちょっと内容を見てみると分からないんですが、公表ということが8ページにかなりページ数を取って書かれています。このテストの目的からしたら公表することに意味があるのかということ、非常に疑問を感じ</p>

	<p>ますので、ちょっと府教委のほうに公表することの真意を問い合わせていただきたい。分析して、それを次に生かしていくということを公表というのは、もう文科省の学力テストで十分ではないかと思うんです。それを補完するものではないかと私は思うんですけれども、その補完するものまでまた公表してというようなことが、それだけの意味があるのかどうか。先生方の中でいろいろ分析研究して、次の、日常の授業に生かしていくというような形で捉えるほうがいいんじゃないかと私自身は思いますので、その点ちょっとまた問い合わせさせていただけたらと思います。</p>
学校教育課長	<p>今のところは小学生すくすくテストが6年でやります全国学力・学習状況調査のプレテストであるというような説明は、一切ありません。</p> <p>ただ、今ご心配いただいております公表については、我々は、この実施要領を読んだだけです。具体的にどのような形になるというのはこれからの説明になると思います。本市としましても、やはり子供たちに実施したからには、何らかの形で公表というのは必要になるという予測は持っておりますけれども、府の公表の方向性や実施方法などを踏まえまして本市の対応についても考えてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
採決	可決

・報告第1号 高石市郷土史研究委員の委嘱について

社会教育課長	<p>報告第1号、高石市郷土史研究委員の委嘱についてご報告します。</p> <p>本報告については、高石市郷土史研究委員設置規則第5条の規定に基づき、12ページにあります名簿のとおり高石市郷土史研究委員を委嘱したものです。</p> <p>本市郷土史研究委員につきましては、郷土の歴史を研究し、将来の文化の向上、発展の基礎に資するために設置しています。</p> <p>今般、本市の郷土史研究委員の任期満了に伴い、これまで8名であった委員のうち1名の委員の辞退により、残り7名の委員につきまして令和2年9月17日付にて委嘱したものです。なお、任期につきましては、令和4年9月16日までとなっております。</p> <p>本報告については、教育委員会会議を開き議決を得るいとまがございませんでしたので、やむを得ず高石市教育委員会通則第2条第3項の規定により教育長が臨時に代理いたしました。</p> <p>以上のとおりご報告いたしますので、どうかご承認賜りますようお願いいたします。</p>
木寄教育長	承認する。

・報告第2号 教育委員会の後援等に関する報告について

教育総務課長	<p>本件は、高石市教育委員会の後援等に関する規程第2条第1項の規定に基づき処理したものについて、同条第2項の規定により、14ページ記載の学校教育課1件、社会教育課7件の報告をするものです。</p>
木寄教育長	承認する。

・報告第3号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各所属長	<p>令和2年8月12日から令和2年9月29日までの当教育委員会関係諸行事について、各課より報告。</p>
------	---

木寄教育長	承認する。
-------	-------